

森林総合研究所における土壌試料の採取方法

【調査方法】

(1) 土壌試料の採取

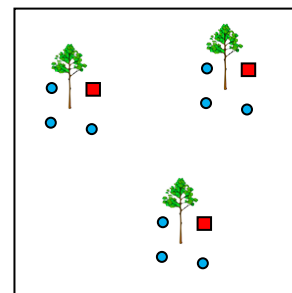
- ・プロットごとに選定された3本の伐倒木の北・東・南・西方向に2m離れた4地点で、伐倒作業が行われる前に土壌試料を採取する（伐倒後、根元に杭を打つ）。

- ・そのうちの1地点 ■ では、幅50cm 深さ30cm程度の土壌断面を作成し、写真撮影（断面+堆積有機物）を行う。
- ・堆積有機物試料は、25×25cmの方形枠を用いて採取する。
L, F, Hが層としてあり、それぞれ十分な量がとれる場合は分けて採取する。その際にクリノメータ等を用いて採取地点の傾斜角を測定する。試料数：1 (or 2 or 3) 層位×3地点

- ・0-5, 5-10, 10-15, 15-20cmの深さでφ110×50mm円筒試料を採取し、ポリ袋にあけて持ち帰る。円筒や道具類に付着した土はその都度ウェットティッシュで拭き取る。この試料で、放射線・容積重・水分の各測定用を兼ねる。試料数：4層位×3地点
- ・礫が多くて円筒で採取できない場合は、幅20×奥行5cm×厚さ5cm程度の直方体ブロックを想定し、その範囲の細土を採取する（形は変えてもよい）。袋にVBと書き、幅・奥行・厚さを記す。礫がきわめて多い場合でも、面積を大きくするなどして、少なくとも細土200ml程度は採取する。

- ・その他の3地点 ● では、25×25cmの堆積有機物試料および0-5cmの土壌試料を採取する。
- ・0-5cmの土壌試料は定面積とするためにφ110×50mm円筒を用いて採取し、ポリ袋にあけて持ち帰る（放射線量測定用）。
試料数：1 (or 2 or 3) 層位×3方向×3地点（堆積有機物）
試料数：1層位×3方向×3地点（0-5cm土壌）

土壌試料採取地点



- 伐倒木
- リター+4円筒
- リター+0-5cm

■ 4円筒試料の採取

